

交通政策審議会観光分科会 第24回 議事概要

1. 日時

平成 26 年4月8日(火)17 時 00 分～19 時 00 分

2. 場所

中央合同庁舎3号館11階特別会議室

3. 出席者

委員：

木場委員、篠原委員、竹内委員、伊達委員、田中委員、屋井委員、矢ヶ崎委員、奥委員、恩藏委員、山内委員

国土交通省：

観光庁、総合政策局、鉄道局、自動車局、海事局、港湾局、航空局

4. 議題

・魅力ある観光地域づくりについて

5. 議事概要

観光庁より、魅力ある観光地域づくりについて、資料に沿って説明。その後、委員による意見交換を実施。主な意見は以下のとおり。

- ・多様な広域ルートに関して。地方空港を活用して、色々な地域を回っていただくことには賛成。地方空港の国際路線は、双方向で乗らないと路線維持できない。地域の方が外国に出ることも奨励していく必要がある。
- ・訪問回数によって、行き先にどういう特徴があるのかを見た上で、1回目の人をターゲットにするか、2回目以降の人をターゲットにするか、戦略を練ることが可能になるのではないかと。例えば、何回も来てくれる台湾の方々が、2回目、3回目にとどの県に行っているか分析するとおもしろいと思う。
- ・新しいルートの開発は効果的だと思う。海外で知名度のある都市や地名は魅力的だと思われ、外国人に旅先として選ばれる。海外に知られる都市や地名を増やしていく施策を進めていくべき。
- ・観光は地域に潤いや蓄えを与えるのが一番大切である。中でも雇用が重要であり、地域の観光プランナーが目指すものが、漠然とした地域活性化ではなく、自分の役目を理解し、地域に雇用を新たに作り出すといった明確な目標を持つことが良い。
- ・専門家を派遣するにあたり、コンピューター上で専門家が一覧にされていて、どういうことに長けている人かが分かり、検索・選択・評価ができるようになれば、地域が、観光の専門家の情報を活用し易くなる。

- ・大学が今まで関わってきた観光業界の人材育成だけではなく、行政にもビジネスメソッドを導入する必要がある。大学の教授をうまく利用して、ビジネスメソッドの出来る行政官を育ててほしい。
- ・訪日外国人の人数も大切だが、質的な向上を目指すべき。目の肥えた欧米の個人客が訪れるような戦略を打てば、他の地域からも来る。質の向上が結果的に量の向上に繋がる。量も質も両方の向上を狙う戦略性を持たないといけない。
- ・岐阜県とニセコの成功事例を知り、意欲がある地域で素晴らしいと思った。日本全体で 2000 万人を目指す場合には、こういうエリア・地域がもっともっと増えないといけない。他の地域の意識をもっと高く引き上げていかなければならない。方法は 2 つあり、ひとつは、ベストプラクティスをもっともっと褒めること。褒めることによって他の地域に伝わる。もうひとつは他の地域にもっと危機感を持ってもらうこと。
- ・ICTの観光への活用は素晴らしい。日本ではプライバシー保護の課題もあるため、チャレンジングだが、重要な分野である。ある程度の投資をかけてやっていくべきことだと考える。

以上